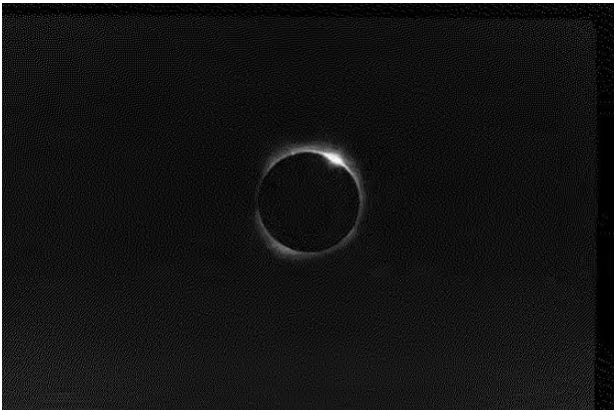


魅惑の黒い太陽

Total Solar Eclipse 2009 July 22 6分22秒に賭けた夢

今 溝 孝 男

鋭い閃光が走り、天空にダイヤモンドリングが煌めいたかと思いきや、次の瞬間青いコロナの光芒がぱっと広がり黒い太陽が出現した。これは、通常の皆既日食のシナリオです。



1983年6月11日インドネシア皆既日食
撮影場所 インドネシア
ジョクジャカルタ近郊のプルウォルジュにて

2009年7月22日、21世紀最大と言われる皆既日食がインドから中国を経由し、日本の悪石島付近を通過し、太平洋の彼方へ行くという現象が予測されていました。

当日皆既日食に対する人々の関心の高さは相当なものでした。

その理由の一つに、日本各地で部分日食として

観測ができることから、早くから注目を浴びていたものです。日本で比較的に大きな食分（太陽が月によって隠される度合）の日食は久しぶりのことでもありました。

また、現在までに記録が残っている日食の中では、インド、中国、日本と人口が比較的多い地域を日食帯が通過するので、日食観測史上最も多くの人々がこの皆既日食を見る事が出来るだろうとも言われていました。

さらに、皆既日食の時間が今世紀最長というのも人々を魅了した要因の一つでした。

こうした事情の中で、私自身もじっとしてられないことは初めから分かっていました。そこで今回も、中国上海の沖合の洋上にて皆既日食を観測するというツアーがありましたので早速参加申込を行い、行ってきましたのでその時の様子をお知らせしたいと思います。

日食観測ツアーの概要は、下関よりフェリーで中国上海近郊の大倉の港に行き、一日蘇州の観光巡りをした後、その夕刻に出航し早朝から上海沖の洋上にて日食の中心線帯（日食が最も長く見ることができる位置）付近にて日食の本影が来るのを待ち構えるというものでした。

皆既日食前日は好天気恵まれ、気温も38度（炎天下では40度を軽く超えていたかも）と、うだるような湿度と暑さでした。明日の日食撮影に備えカメラのチェックを兼ね、中国の風景撮影をしました。カメラも気温が高いためかオーバーワーク。デジカメはあまり高温になると、撮影が出来なくなると言う欠点がありますので要注意と思われます。

夕刻近くに大倉に戻り出国手続を済ませ、再び乗船。

皆既日食前夜の18時には大倉（中華人民共和国）の港を定刻通り出港のはずでしたが、皆既日食のベストポジションとされる中心線帯（皆既日食のど真ん中）に船を航行させるため、時間的かつ距離的にも良い場所に行けるようにと出航を6時間遅らせて0時に大倉の港を離れました。

翌朝、皆既日食の中心帯が通過する地点に接近、約30分間日本方向に航行し、後部甲板で皆既日食観測を行うため観測を妨げないようとの配慮から進路を反転、再び中国方面に向けて1時間航行しこの間速度も波に揉まれない速度ギリギリまで落として航行しました。

本来であれば、この間に皆既日食中心帯を再び通過し、タイミング良く皆既日食に遭遇しブルーのコロナに包まれた黒い太陽を観測できるはずでした。

しかし、当日の天候は昨日とは打って変わって分厚い雲が天空を覆い、太陽の位置すらつかめ無い状況でした。

日食はすでにインドを後に中国へ入っている頃であり、船内に備え付けられているテレビではインドや中国に入り始めた皆既日食について盛んに報道していました。ただ、中国語のため何を言っているのか分かりませんでした。映像で何となく何を伝えたいのかが分かりました。

一方、船上では第2接触（1回目のダイヤモンドリング（皆既日食の始まり））の時間が近づいても天空は相変わらずの状況でした。食分が95%を超えた頃から太陽の輝きが弱くなり始め皆既の時間帯には闇夜が訪れたかのような光景となり、となりの人の顔もよく分からない程になりました。今回初めて皆既日食を見ると言っていた人たちも、太陽こそ見えなかったけれど皆既日食特有の闇に興奮気味でした。皆既中は、皆既日食特有の闇（辺りはかなり暗く360度周囲の水平線は夕焼けのような光景）につつまれ、いつの間に接近していたのかわからなかったが、近間にいた外国籍の豪華客船おそらく「コスタアレグラ（Costa Allegra）」だと思う存在が窓から溢れる光で見えて取れました。

そうこうしているうちに、皆既日食の時間が刻々

と過ぎ去り、そろそろ第3接触（2回目のダイヤモンドリング（皆既日食の終焉））を迎える時間となりました。

今回の日食は雲を通しての体験となってしまう、雲上の天空では素晴らしい光景が広がっている事を想像すると心身ともに沈んだ気持ちになりました。

と、思いきや突如、雲の中を閃光が走りました。ダイヤモンドリングです。奇跡とも思われるダイヤモンドリングの閃光が分厚い雲を通して見えたのです。しかし、この瞬間、皆既日食は終わりを告げました。

期待が大きかっただけに、全然見る事が出来なかった今回の日食ですが、第3接触直後から、予期せぬ事が天空で起こりました。今まで分厚い雲によって遮られていた太陽の姿が目映いばかりの光を放ちながら曇のまにまに見えるようになってきたのです。写真はその時の一枚です。その後、太陽は光を取り戻すかのように、第4接触到むけ徐々に本来の明るさに戻りつつありました。いつの間にか厚い雲に覆われていた空は青空が広がり見違えるようなブルースカイになりました。

もう2・3分早ければと残念な気持ちを東シナ海洋上に置き、船も再び反転し速度も通常速度に戻し日本に向け帰りました。

今回は、船を航行している会社や船長の最大限の努力が色々な場面で感じ取ることが出来、皆既そのものは見えなくとても残念でしたが、点数で表したならば45点位かなと言うところでしょうか。皆既日食は毎年地球上のどこかで起こっています。ちなみに2010年1月には、インドから中国の青島で金環日食が、2010年7月にはイースター島で皆既日食が、また、2011年6月には鹿児島から静岡・関東で金環日食が見られます。

日食を次々と追いかけて世界を駆けめぐっている人もいますが、この人のことを「日食ハンター・エクリプスハンター」と呼んでいます。正に日食ならぬ（日）食中毒状況なのでしょうね。それだけ素晴らしく魅力があるということです。

また次の日食を狙います。



今回の日食で見ることが出来た最大食分の太陽
撮影はニコンF100
この数分前には皆既とダイヤモンドリングが見えていたはずである。



撮影日及び時間 7/22 10:46.58 (日本時間)
撮影位置 東経123° 17'48" 北緯30° 59'23"
露 出 1/320
使用レンズ 400mm
ISO 200
使用カメラ オリンパスE-P1